

歴史的建造物・集落の保存、文化財保存



教授 工学博士
上北 恭史
うえきた やすふみ

当研究室は、歴史的建築物や伝統的集落を中心に人々の生活とともに継承されてきた文化遺産の保存の方法論について研究をしています。遺産は有形、無形を問わず遺産に関係してくるさまざまな人々とともに伝えられてきました。また遺産の周辺の環境や維持されてきた様々な技術や生活様式によって遺産は支えられてきました。人々の生活様式や遺産を取り巻く周辺の環境が変化すると、遺産の継承が難しくなる場合があります。

研究手法は現地における遺産の保存調査を行い、遺産のもつ価値の特定、遺産を継承してきた所有者やコミュニティの生活様式、遺産とかかわりを持つ周辺環境などを把握し、遺産の継承にとって障害になっている問題を把握します。そして遺産を継承していくための社会的枠組みを整理し、遺産を保存していく方法論を提案します。これらの遺産保存のための方法論は調査によってもたらされた科学的根拠に基づき、遺産を保存していくための計画立案を立てていくことに特徴があります。そして社会的枠組みやルール、技術の継承、人材育成を含めた遺産管理(遺産マネージメント)の体制を構築していくことにより、遺産を守る方法を考究します。

研究員：ボグダノヴァ・アンナ

大学院生博士課程後期：龍門達夫 パティポン・ヨッスラン 中井陽子 アエシュ・ムーサ

大学院生博士課程前期：福田藍 白壁七恵 劉震宇 曹吟 黄卓立 ファニ・アトマンティ 安達隆太

ウクライナ木造教会堂群保存手法の構築
— 日欧校倉造修理工法の比較議論を通して

In this study we conducted a quantitative survey of the conservational state of 383 historical wooden churches in the Lviv Region of Ukraine. We focused on the treatments applied by religious communities for the protection and exploitation of the historical churches in their possession. The effect of each treatment was analyzed according to the architectural characteristics of Ukrainian wooden churches. During the investigation it could uncover some factors that influence the behavior of religious communities towards the cultural property they exploit and the protection of living religious heritage.

伝統的生産システムによる保存手法の研究
— 熱帯地域木造建造物保存の国際共同研究

我国の文化財修理や伝統的建造物群保存地区で行われている木造建造物の保存方法、および国際協力で実績をあげたホイアン歴史地区保存の事例を通して、インドネシアの木造建造物、特にニアス島南ニアス県バウォマタルオ村伝統的集落歴史保存地区を調査対象地とした。両地区とも日本のような文化遺産保護の体制は地方政府に確立されていない。そして新しい材料で旧材を置換える修理の方法がみられた。熱帯地方の木材は腐りやすく、蟻害も短時間に進む。伝統的様式を維持するために、伝統工法の継承、文化遺産保存体制の確立、保存に係る人材の育成という保存基盤を早急に整備することが必要である。

東日本大震災による重要伝統的建造物群保存
地区の町家と土蔵の地震被害の研究

重伝建地区が被災したのは、阪神淡路大震災の神戸市北野町と、能登半島地震で被災した輪島市黒島以来のことである。多くの伝統的建造物を抱える重伝建地区が被災すると再建に多大な費用と時間が必要で地震防災計画の策定が課題である。

本研究では今後の重伝建地区の地震防災計画策定の基礎資料となるよう、関東の重伝建地区5地区の町家と土蔵の地震被害の研究を行った。

チャオプラヤ川流域の水辺住宅における
伝統的木造集落の建築的特徴とその水域環境

タイ国チャオプラヤ川流域とその周辺河川は、自然生態系や文化、資源が存在し、農耕が未だ機能している。

しかし、目まぐるしい速さで変化を遂げていく近代社会のなかで、水域環境における伝統集落とその生活方法は今後数年間で急速に失われていく可能性がある。本研究は、このようなチャオプラヤ川流域に位置する水域環境に残る伝統的な水辺集落を対象に、木造住宅について調査を行い、その建築的特徴と残存状況を把握し、ローカルデザインにおける水域環境の影響を解明することを目的にしている。